

ISBRA KANTO 公益社団法人 日本農芸化学会 2019年度 関東支部大会

(報告者：小林達彦 [筑波大学])

令和元年9月12日

日本農芸化学会関東支部2019年度大会は、9月7日(土)に筑波大学で開催されました。筑波大学は秋葉原からつくばエクスプレスで約1時間、つくば駅からバスで20分弱であるにもかかわらず、関東全域から多数のご参加を頂きました。

まず、9時40分より小林(支部長)の開会の辞の後、9時50分から11時30分までポスター発表が総合研究棟A棟で行われました。ポスターの発表件数は48件(うち優秀発表賞のエントリーは26件)で、奇数・偶数の演題に分かれ、各50分のディスカッションタイムの中、活発な討論が行われました。



昼食をはさんで、12時30分から前半の口頭発表9件(うち優秀発表賞のエントリーは4件)が第2エリア2H棟101号室で行われました。進行が10分程遅れたものの、休憩後の14時40分から後半の口頭発表7件(うち優秀発表賞のエントリーは4件)が行われました。各々、12分(質疑応答2分含)と時間が短かったものの大変興味深い内容の発表そして活発な質疑討論が行われました。16時20分からの受賞者講演では、今春の農芸化学会2019年度大会で受賞された方々にご講演頂きました。まず、若手女性研究者賞を受賞された吉田彩子先生(東大・生物生産工学研究センター)は「高度好熱菌由来短鎖脂肪酸代謝酵素の調節機構」について、続いて、女性研究者賞を受賞された飯島陽子先生(神奈川工科大・応用バイオ科学部)が「植物性食品の香りを主とする質的特性に対するその因子探索とフードメタボロミクスによる展開」についてご講演下さりました。

JSBBA KANTO

そして、女性企業研究者賞を受賞された田中美順先生(森永乳業株式会社・素材応用研究所)は「アロエベラ由来ステロールの機能性とその応用に関する研究」についてお話して下さいした後、最後に、技術賞を受賞された神田淳先生(株式会社 明治)が「吸収性に優れ、カラダ作りに最適な革新的乳たんぱく質飲料の開発研究」についてご講演されました。

午後からの口頭発表と受賞講演を伺い、最先端の研究内容を勉強するとともに、基礎から応用にわたる農芸化学の分野の広さをあらためて実感致しました。

最後に、小林から閉会の挨拶をさせて頂き、支部大会は無事予定通り終了しました。

大会終了後、18時から筑波大学内の第2エリア大食堂で懇親会が行われました。一般37名、学生44名、合わせて81名が参加した懇親会では和やかな雰囲気の中、活発な議論と情報交換が行われました。会の半ばに、学生会員が発表者である講演を選考対象とした優秀発表賞の授賞式が行われました。本賞は支部長の推薦により授与される賞で、支部長に指名された農芸化学の各分野の会員によって高い評価を得たポスター発表部門3名、口頭発表部門2名にそれぞれ賞状と副賞が授与されました。

蒸し暑い日であるにもかかわらず朝から、121名(一般55名、学生66名)もの方々にご参加頂き、研究討議、懇親を深めることができ、盛況のうちに終了することができました。



末筆ではありますが、発表者および参加者の方々、支部大会の開催・運営にご協力頂きました皆様に感謝申し上げます。